様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月３０日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2011～2012
課題番号：２３８２００４１
研究課題名（和文）　北米先住民文学と核の言説ー核・原爆文学にみる植民地主義問題

研究課題名（英文）　Native American Writers and Nuclear Discourse: (Post)colonial Nuclear Literature

研究代表者
松永　京子（MATSUNAGA KYOKO）
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号：50612529

研究成果の概要（和文）：本研究では、サイモン・オーティーズやシャーマン・アレクシーといった北米先住民作家の作品における核の言説を、ポストコロニアリズムやエコクリティシズムの視点から分析した。また、日韓の文学作品との接点を探りつつ、グローバルでマルチカルチュラルな核・原爆文学の広がりを示唆した。

研究成果の概要（英文）： The research includes postcolonial and ecocritical analysis of nuclear discourse in works by Native American writers such as Simon J. Ortiz and Sherman Alexie. The research also indicates the possibilities of global and multicultural approaches to nuclear/atomic bomb literature.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１１年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１２年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：英米・英語圏文学
キーワード：先住民文学、原爆文学、核文学

１．研究開始当初の背景

(1) 先住民研究や地域研究などの領域で調査を進められてきた先住民と核の関係は、近年、文学の領域においても重要なテーマとして取り上げられてきた。なかでも 2001 年に出版されたジョニ・アダムソンの研究書『アメリカ・インディアン文学、環境正義、そしてエコクリティシズム』（*American Indian Literature, Environmental Justice, and Ecocriticizm*）は、オーティーズやレスリー・マーモン・シルコー（ラグーナ・プエブロ族）といった先住民作家の作品に描かれる原爆、ウラニウム鉱山、核廃棄物処理の問題を、1980 年代に興隆した環境正義運動に結びつけた先駆的研究書の 1 つであるといえる。より包括的でマルチカルチュラルな「自然」、「正義」、「場所」といった概念を発達させる必要性を説くアダムソンの研究姿勢は、ジェイムズ・ターターなど文学作品を環境正義の視点から考察する米文学研究者にも引き継がれることとなった。本研究代表者も 1999 年から北米先住民文学と核問題の関わりを研究してきたが、この研究は The College

English Association 学会で賞をもらうなど、同様の興味を持った多くの研究者から高い評価を得てきた。

(2) 北米先住民文学における核問題は、このように文学領域においても着実に発展してきた。しかし、これらの研究はあくまでもアメリカ南西部といった地域限定的な枠組み、あるいは北米先住民文学の枠組みから研究されたもので、日本文学の研究で確立されてきた原爆文学と結びつけられることはほとんどなかった。もちろん、原爆文学と北米先住民の関わりについては、小田実や林京子といった日本作家や日本文学研究者の黒古一夫氏らによってすでに指摘されてはいる。小田実の『Hiroshima』(1981)に描かれる植民地主義の問題—特にウラニウム鉱山や核実験場のために土地や文化を搾取されてきた北米先住民部族や韓国人被爆者—に注目し、『Hiroshima』を「原爆文学から＜核文学＞への広がりを見せた最初の作品」(36)と位置づけた黒古氏の『原爆文学論』(1993) はとりわけ貴重である。黒古氏に続いてジョン・W・トリート氏もまた『グラウンド・ゼロを書く—日本文学と原爆』（*Writing Ground Zero*, 1995）の中で、小田実の『Hiroshima』に描かれる先住民像の限界を示しながらも、既存の原爆文学の枠を拡大した作品として評価している。これらの作品や研究は日本の原爆文学を北米先住民の核問題へと敷衍した点においてたいへん重要であると同時に、原爆と植民地主義の関係を浮き彫りにした画期的な研究であるといえる。しかし、黒古氏やトリート氏の「核文学」は日本の原爆文学が中心であり、実際に北米先住民作家によって書かれた小説や詩、あるいは現代の韓国人作家によって書かれた作品は含まれてこなかった。黒古氏が主張するように原爆文学をグローバルな「核文学」へと拡大するためには、こういった幅広い視点に立脚する必要性は否めない。

(3) そこで本研究では、北米先住民文学と日本・韓国の原爆文学の間テクスト性を示しながら、既存の原爆文学をグローバルな核文学へと広げる作業を行った。この土台となったのが、先住民文学作品や日本原爆文学における植民地主義や環境正義問題を扱ってきたこれまでの研究である。ネブラスカ大学在中に執筆した博士論文では、オーティーズ、シルコー、ヴィゼナーといった北米先住民作家を取り上げ、これらの作品群が日米核・原爆文学のなかで重要な位置を占めていることを指摘してきた。また日本学術振興会の特別研究員としてアメリカ文学のエコポリティックスを研究した際には、ニューメキシコ州のトリニティーサイトを訪れ、林京子論やオーティーズ論を展開するきっかけを得た。ペンシルヴァニア大学着任後は、ヴィゼナーの『ヒロシマ・ブギ』の核の言説と日本原爆文学の比較研究を始め、本研究はこれらの延長線上にある。

２．研究の目的

本研究の目的は、北米先住民文学作品の中でどのように原爆や核が表象されているのかを、ポストコロニアル理論や環境正義の視点から考察しつつ、既存の核・原爆文学をより幅広い想像力の表象としての文学的枠組みへと再構築することにあった。具体的には以下の２点を目的とした。

(1) サイモン・J・オーティーズの詩集『ファイトバック』（*Flight Back,* 1980）、ジェラルド・ヴィゼナー（アニシナベ族）の『ヒロシマ･ブギ—アトム 57』(*Hiroshima Bugi: Atom 57,* 2003)、ウラニウム鉱山に言及したシャーマン・アレクシー（スポケーン族）の詩といった現代北米先住民作家の作品を中心に、核にまつわる表象と植民地主義の関係を考察する。

(2) ポストコロニアルな視点や韓国人被爆者に焦点を当てた日韓の文学作品（韓水山の『軍艦島』や大田洋子、栗原貞子、大江健三郎、林京子、小田実の作品）と北米先住民の文学作品との接点を探りながら、グローバルでマルチカルチュラルな核・原爆文学の広がりを示す。

３．研究の方法

(1) 広島での調査・資料収集
北米先住民作品で言及・引用される日本原爆文学や原爆関連資料についての調査を行うために、広島平和記念資料館や広島大学図書館を利用。その際広島平和記念資料館ではピース・ボランティアのメンバーの協力を得た。

(2) 長崎での調査・資料収集
長崎の韓国人被爆者の状況を調査するため、長崎原爆資料館、長崎平和資料館で調査。特に長崎市民によって運営されている長崎平和資料館での調査は、原爆と植民地主義の関係についてより深い理解を得るために必要であった。また、長崎訪問の際に、長崎の端島（「軍艦島」）で現地調査。

(3)アメリカでの調査・資料収集

ウィスコンシン大学とアリゾナ州立大学の図書館で北米先住民作家に関する資料・文献の入手と調査。

(4) オーティーズ氏へのインタヴュー
アリゾナ州立大学で教鞭をとっているアコマプエブロ族の詩人サイモン・オーティーズ氏にインタヴューを行い、詩集『ファイトバック』の経緯や北米先住民文学についての話を伺う。

(5) 学会発表
調査・収集した情報や資料に基づき、ASLE-US, エコクリティシズム研究会、原爆文学研究会などで発表。

(6) 論文執筆・投稿
調査・収集した情報や資料、学会発表に基づき、論文を執筆し、原爆文学研究会の会誌への投稿や図書という形で発表。

４．研究成果

(1) 広島平和記念資料館、広島大学図書館では、原爆関連資料・展示品や原爆関連作品についての調査を行い、栗原貞子、大江健三郎、小田実など核・原爆と植民地主義の問題を扱った日本文学作家についての調査を行った。

(2) 長崎原爆資料館と長崎平和資料館で、韓国人被爆者についての調査を行った。特に長崎平和資料館での調査では、韓水山の『軍艦島』に描かれる原爆と植民地主義の問題を考察する上でたいへん重要であった。また、長崎の端島での現地調査は、作品理解や分析に役立った。これらの調査に基づいて、日韓と北米における原爆文学のコロニアリズムや帝国主義の問題を分析した。

(3) ワシントン州のウラニウム鉱山の問題を描いたシャーマン・アレクシーの詩作品の理解と分析のため、ウィスコンシン大学の図書館で資料の調査・入手をおこなった。この調査に基づいて作品分析を行い、「先住民文学と（ポスト）コロニアリズム—シャーマン・アレクシーの詩と核の言説」というタイトルで口頭発表を行った。また、これを修正し、最終的に論文「ウラニウム鉱山と引き継がれた抵抗の遺産」として、図書『カウンターナラティヴから語るアメリカ文学』の一部として出版した。

(3) アメリカ南西部におけるウラニウム鉱山の問題を描いたサイモン・オーティーズの詩作品の理解と分析のため、アリゾナ州立大学の図書館で資料の調査・入手をおこなった。また、オーティーズ氏へのインタヴューを行い、作品理解と解釈の参考とした。これらに基づいて、現代北米先住民文学における核にまつわる表象と植民地主義の関係を考察し、原爆文学研究会のワークショップにて口頭発表（「日米の教育現場から」「核をめぐるアメリカ南西部の文学—サイモン・J・オーティーズの詩を中心に」）を行った。最終的にはこれらの口頭発表をもとに、論文「核をめぐるアメリカ南西部の文学—サイモン・J・オーティーズの詩を中心に」を執筆し、『原爆文学研究』に投稿した。

(5) ポストコロニアルな視点や韓国人被爆者に焦点を当てた日韓の文学作品と北米先住民の文学作品を比較研究し、“(Post)Colonial/Imperial Bodies and Atomic Bomb Narratives.”として ASLE-US 学会で発表した。本発表の原稿は、今後修正を施し、学会誌などに投稿する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
松永京子、「核をめぐるアメリカ南西部の文学–サイモン・J・オーティーズの詩を中心に」、『原爆文学研究』11 号、査読無、2012、117-130.

〔学会発表〕（計４件）
Kyoko Matsunaga.
“(Post)Colonial/Imperial Bodies and Atomic Bomb Narratives.” Ninth Biennial Conference for the Association for the Study of Literature and Environment, June 25th, 2011

松永京子、「先住民文学と（ポスト）コロニアリズム—シャーマン・アレクシーの詩と核の言説」、シンポジウム「エスニシティとエコクリティシズム—現代エスニック・アメリカ文学を読む」、第 24 回エコクリティシズム研究会、2011 年 8 月 8 日

松永京子、「日米の教育現場から」、創立 10 周年記念ワークショップ「原爆文学研究この 10 年、これからの 10 年」、原爆文学研究会

松永京子、「核をめぐるアメリカ南西部の文学–サイモン・J・オーティーズの詩を中心に」、ワークショップ「北米文学における核の表象について」第 39 回原爆文学研究会、2012 年 7 月 8 日

〔図書〕（計２件）
松永京子 他、『オルタナティヴ・ヴォイス

を聴く—エスニシティとジェンダーで読む現代英語環境文学 103 選』、音羽書房鶴見書店、2011（担当箇所：「ウラニウム鉱山と引き継がれた「抵抗の遺産」」他）

松永京子 他、『カウンターナラティヴから語るアメリカ文学』、音羽書房鶴見書店、2012（担当箇所：「ウラニウム鉱山とサーモン—アレクシーの詩に見るサバイバルの言説」他）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
松永　京子（MATSUNAGA KYOKO）
神戸市外国語大学・英米学科・准教授

研究者番号：

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：